

いわい こずえ
○岩井 梢¹⁾、松岡奈保子¹⁾、筒井昭仁¹⁾²⁾、中村譲治¹⁾

1) NPO 法人ウェルビーイング、2) 福岡歯科大学

【背景】

演者らは自治体で行われる乳歯う蝕対策の支援を目的に、独自の住民参加型乳歯う蝕対策プログラムを開発した。このプログラムは、7市町村でその効果が確認されている（中村、2003）。しかし、地域での普及、啓発は行えていない。

【目的】

本研究は、プログラムを実際に地域での応用し実践面でのプロセス評価を行うことで、地域でのプログラム普及の可能性を探ることが目的である。

【方法】

乳歯う蝕が課題である3市町でプログラム（表1）を使って1年間取り組みを行い、計画策定終了後、担当者にアンケートと聞き取り調査を実施した。

表1 う蝕対策プログラム（概要）

目	地域診断の結果をもとに目標設定を行い、行政、専門家、地域・住民との協働で健康づくり活動を実施する。
方	演者らが行政担当者を対象にファシリテーターのトレーニングを行い、協議会で利用する資料やツールを提供した。
法	協議会を運営 協議会は、市町の担当者が中心となり、目的の共有、地域診断、目標の共有、活動計画の作成を行った。
協	① 事前打合せ：会議の目的、時間配分、役割分担の確認 ② 協議会：行政スタッフがファシリテーターとなってグループワークを進行。毎回最初にアイスブレイク、ふりかえりの時間を設ける。 ③ 反省会：各グループの進捗状況の確認、情報の共有、次回の進め方の確認
議	
会	
の	
運	
営	

【結果】

協議会運営のプロセス評価の結果、以下の4つの有用性が上げられた。

- ①参加者の積極的な意見が引き出された。
- ②参加者の関心が高まった。
- ③会としてのまとまりができた。
- ④具体的な活動へ結びついた

付箋を使ったグループワークにより参加者全員が同じ立場で意見を出すことができ

- ①参加者の積極的な意見が引き出された。

参加者に理解しやすいかたちで地域の歯科保健データを提供し、それを題材に話合ったことで②参加者の関心が高まった。

協議会を通じて、目的・目標の共有を行い

- ③会としてのまとまりができた。

行動目標が具体化した後、地域資源を活かす形でチーム分けを行い、テーマを絞った活動計画を立てた。これによって④具体的な活動へ結びついた。

なお、担当者から成功のポイントとして事前打合せを行うことで、スムーズにグループワークが実施されたことから、事前打合せの重要性があげられた。

【結論】

本プログラムは地域で実践的に応用可能なプログラムであることが確認され、今後普及活動を行うことが重要であると考えられた。

（連絡先）

岩井 梢 NPO 法人ウェルビーイング
E-mail : iwai@well-being.or.jp